

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071000428		
法人名	社会福祉法人 桜花会		
事業所名	ライフケア大手門	ユニット名	
所在地	福岡県福岡市中央区大手門2丁目5番15号		
自己評価作成日	平成30年9月10日	評価結果市町村受理日	平成30年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成30年9月21日	評価確定日	平成30年10月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福岡市中心部にある複合施設の最上階にあり、見晴らしも良く、夏には屋上で大濠花火大会の見物をする事も出来ます。他事業所との合同行事(どんたく祭りや運動会、秋祭り等)、ホーム内での催し等で交流を図りながら、メリハリのある生活を送って頂いています。複合施設ということもあり、他の事業所から入居される方が多いのも特徴の一つです。入居者様は同じ建物内での移動ということもあり、混乱は比較的少ないように見受けられます。昨年度は4名のスタッフが入職し、今年は外国人留学生もアルバイトで採用しました。新旧スタッフ一丸となり、新たな体制でチームケアを行っています。入居者様、スタッフ共々少人数の中での役割を意識しながら日々を明るく、楽しく過ごせるよう柔軟に対応しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“ライフケア大手門”のリビングから福岡タワーを眺めることができる。1階には地域交流センターがあり、ボランティアの方がフルート演奏や押し花作り等をして下さっている。平成30年から地元の「地域カフェ」に職員が参加しており、入居者の方も一緒に参加できるように取り組みを続けている。日々の生活では、入居者の方々との会話を大切にされており、食事の希望や外出(外食)などの願いを叶えるように努めている。30年から訪問リハビリも利用し、月2回、理学療法士からリハビリをして頂き、日々の生活でも職員が継続し、歩行機能が向上した方もおられる。施設長や主任は職員個々の頑張りやレベルアップポイント等を明確にし、法人目標、ホームの目標、職員個々の目標を掲示している。施設長や臨床心理士による職員面談も行われ、職員のメンタルケアも続けている。今後も家族の方々との会話を増やし、少しでも真意を伝えて頂けるように努めていく予定である。

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和は朝礼時に行っている。スタッフルームにも掲示し、共有を図りながら職員の意識向上に繋げている。	日々のケアを振り返り、月間目標を決めている。理念にある「個人の尊重を重んじ…」「質の良いサービス…」等について職員間で検討し、医療連携と共に、運営推進会議等で助言を頂いている。入浴等のケアに関しても、笑顔で柔軟に対応できるように努めていく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の交流スペースを利用した地域の方との交流、ボランティアの方々との定期的な交流が行われている。商店街での買物を通して地域との関わりを大切にしている。	地域ふれあいサロンや施設1階で行われるボランティア(フルート演奏、紙芝居、押し花作り等)の催しに参加し、地域の方や系列施設の利用者と交流されている。保育園児やパフテス協会の方も訪問して下さり、童謡などを楽しまれ、地域の夏祭りや保育園の運動会にも行かれている。	今後も地域の方々に、「認知症」や「認知症ケア」を発信する機会を増やすと共に、地域の方に「認知症と共に生きる方々」を受け入れて頂き、入居者と一緒に「地域カフェ」等に参加していきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況やサービス内容等の報告、地域の取り組み等を報告しながら情報共有している。入浴拒否の例を取り上げたところ、対応についての資料を提供して下さった方がいらっしやり参考にさせて頂いた。	独居でマンションに暮らす方が多い地域でもあり、集いの場などの検討を続けている。避難訓練にも参加して下さり、避難時にタオルを活用する事などのアドバイスを頂いた。涼み会も行い、楽しいひと時を過ごされた。今後も事前に議題をお知らせし、参加しやすい会議にしていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に職員の方が参加されホームの状況を報告している。ふれあい相談員の方が家族会等に参加されたこともあった。	必要な書類は主任が市に持参している。ふれあい相談員の派遣もあり、情報交換を行っている。今後も市の職員に運営推進会議に参加して頂き、ホームの取り組みや地域情報の共有などができればと思っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修を行い、スピーチロックを含め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束を禁止している。不穏になられる時は「不安?」「ケアや声かけの仕方?」等の原因を分析し、ご本人の思いに寄り添うケアを続けている。エレベーターは構造上、暗証番号を押して開けるシステムで、散歩等の希望がある場合は職員が付き添い、開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為、施設内においてアンケートを実施し、現状の把握と注意喚起を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は利用されている入居者様もいらっしゃる為、運営推進会議等において定期的に学ぶ機会を設けている。掲示物でも制度の紹介を行っている。	29年、運営推進会議の時に地域包括の方から制度の説明をして頂き、欠席者には議事録を郵送している。ホーム内にパンフレットを準備し、契約時に説明しており、主任が入居者個々の制度の必要性を確認している。今後は外国人向けのパンフレットも探していく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約等の問題を含め、出来るだけ相談の機会を設け、説明を行い、理解と納得を得られるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時や運営推進会議等においてご意見を伺っている。家族会も年2回行っており、御要望を伺いながら運営に反映させている。サービス内容についてのアンケートも実施した。	家族の方々に参加して頂ける行事を企画し、お誘いしている。敬老会と忘年会の後に家族会を行い、情報交換が行われている。ホームで家族アンケートも行い、お褒めの言葉と共に要望なども参考にさせて頂いている。「おやつ作りをしては？」などのアイデアも頂き、実践に繋げている。	今後も更に、家族の方との信頼関係を深めると共に、より密で打ち解けた関係を作っていきたいと考えている。家族の面会時に、少しでもゆったりとした時間を作り、話しやすい「空気感」や「間」を作っていく予定である。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長をはじめ役職者との個人面談を通して職員の意見、提案を聞く機会としている。カンファレンスにおいても出来るだけ個々の意見が出せるような体制をとっている。	法人全体でケアの質の向上に努めている。施設長等との面談もあり、思いや要望を伝えやすい環境が作られている。職員から日々の記録の在り方等の意見もあり、他施設の記録も参考にさせて頂きながら改善が行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、その後に面談を行う等、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集、採用にあたっては制限は設けていない。職員については希望休を聞いたり、資格取得に向けての環境整備を行う等配慮している。	施設長と部長が面接している。資格の有無を問わず、応募者の笑顔や話し方等を大切に採用している。職員は年1回以上の外部研修に参加し、日々の実践に繋げている。資格取得の意欲も高く、やりたい仕事の希望も伺い、必要に応じて異動も行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権については内部研修に組み入れ、教育の機会を確保している。	施設長は「入居者の1日1日を大切に」「高齢者の生き方から学ぶ」「職員個々に成長して欲しい」等を職員に伝えている。日々のケアでは主任が中心になり、「入居者個々の行動分析の重要性」や「ご本人の言葉も記録に残す」事の大切さ等を伝えている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握しながら、研修を受ける機会を確保している。また、資格取得に向けても配慮しており、研修参加を積極的に勧めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、勉強会や訪問活動を行い、交流を通じてサービスの向上に繋がるよう努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階においては特に留意し、不安、要望等を伺いながら把握に努め、スタッフ間でも共有しながら対応に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係づくりにおいても同様に配慮し、状況を把握するよう努めている。また、ケアプランに反映するよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を行いながら多方面からのアプローチを行っている。状況に応じて他のサービス利用を勧めることもある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動等、役割を持って生活をして頂き自立支援を行っている。入居者様からアドバイスを頂く等、支え合える関係づくりを行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけご家族にも参加して頂けるような催しを企画し、協力して頂くようにしている。また、お手紙や電話等でもこまかな情報をお伝えし、共に支えていく関係を築いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内での催しを企画し、出来るだけ馴染みの人に足を運んで頂けるよう支援している。外出の送迎等も行っている。	女学校時代の友達や馴染みの美容師の方が来て下さり、法人内の施設で生活する知人との交流も続けている。馴染みの場所をドライブしたり、地域ふれあいサロンに参加する事で、地域の方と馴染みの関係になっている。家族とお墓参りや馴染みのデパートに行かれた方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係は、日々のご様子を観察しながら把握していくよう努めている。個々の時間も大切にしながら催しやレクを通し、関わりの時間も確保出来るよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の別事業所や他の施設に入居されたケースもあり、経過を伺ったり、相談に答えながら、支援が出来るだけ途絶えないよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で意向を伺い、把握に努めている。知り得た情報は記録に残し、共有しながら介護計画に反映するよう努めている。困難な場合はよりご家族からも情報を得るよう努めている。	センター方式を活用している。担当職員が中心になり、生活歴や要望(行きたい場所や食べたい物等)と共に、入居者個々の言動に関する分析内容も記録し、職員間で共有している。食事の要望も多く、「～が食べたい」等の願いを叶えるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話や面会に来られた際のご家族との会話を通して生活歴、趣味等を把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、ケアプランに沿った支援を通じ把握するよう努めている。体調の変化等も細かく記録に残し共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から要望、意向を伺い、尊重したケアプランを作成している。また、ケアカンファレンス等で出た意見も取り入れている。	ご本人、家族と話し合い、お好きな事(編み物等)と共に、散歩や買い物、ふれあいサロン等への外出支援も盛り込まれている。訪問PTの指導のもと、個別のリハビリを実施し、日々の生活でも効果が見られている。3表(日課表)も活用し、入浴時の留意点等の個別援助計画も記入している	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身状態や体調面での気付き、ご本人から発信された情報を記録し、職員間で共有している。必要に応じて申し送りノートを利用し、意見交換を行いながらケアの見直しに繋げている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせてご家族に代わって受診に付き添ったり、買物のサポートをする等、要望に応えられるような体制づくりを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	郷土食を昼食の献立に入れる場合もある。また、かかりつけ医の継続的な受診等も勧めている。公民館行事への参加等で交流の機会を支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿う形で医療を受けて頂いている。かかりつけ医とも情報の共有に努め、適切な医療を受けられるよう支援している。	日頃から入居者の健康管理に努めている。体調変化等は系列病院に24時間相談でき、医師等からアドバイスを頂いている。緊急時は系列施設の特養の看護部長や訪問看護師に相談でき、受診時は家族に同席して頂き、医師からの説明を聞いて頂く場合もある。	経験の浅い職員も多くなっており、今後も緊急時(意識消失等)の対応を含め、医療的な知識を養うための研修の機会を増やしていく予定である。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師や協力病院の訪問看護師と連携しながら健康管理に努め、必要な受診は迅速に行えるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者との情報交換、相談を随時行い、出来るだけ早期退院出来るよう支援している。また、法人の勉強会等を通し、病院関係者との交流を図っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時やご面会時等で説明し、ケアプランの説明時等に個別でお話しする機会を設けている。その時々状況に合わせて、方針の共有を図っている。	入居時に、24時間体制の往診がなく、最期は希望を伺いながら、病院(さくら病院)や特養に転院になる事をご同意頂いている。医療行為が必要となった場合の“意思確認書”も作成している。「最期までここで」と願われる方もおられ、医療機関と連携し、家族も一緒に転院ぎりぎりまで誠心誠意のケアが行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや内部研修を通じ、急変時の対応や事故発生時の対応を学び、実践に活かしている。またマニュアルを整備している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での消防訓練に加え、ホーム内においても年2回の訓練を行い、緊急時に備えるとともに、会議を通じ地域との協力体制にも努めている。	同階の屋上が避難場所である。法人全体の訓練(2回)とホーム単独の訓練(2回)が行われ、入居者と家族、地域の方と夜間想定訓練を続けている。消防署の方も毎年点検に来て下さり、アドバイスを頂いている。厨房で飲料水と食料を確保し、自家発電も準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格や誇り等を損ねない言葉掛け、羞恥心に配慮した介助を行うよう努めている。言葉マナー月間を設け、尊敬、敬意の気持ちを常に持って言葉掛けを行うよう啓発している。	職員の入れ替わりもあり、法人全体で接遇などのレベルアップに取り組まれている。訪室時にはノックと声かけを行い、ご本人の許可を得るようにしている。入浴時等は羞恥心に配慮し、ご本人の思いやペースを大切にされた関わりを続けている。個人情報管理も行い、情報漏洩防止に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る方に対してはそれを尊重し、難しい方にも表情の変化などから汲み取るよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動への参加や過ごし方は、あくまでご本人の希望、ペースを優先することとしており、無理強いはいしないよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意向を伺って訪問理美容を利用して頂いている。衣服も可能な限りご本人に選んで頂いている。化粧品等もそれぞれのご利用者が準備されたものを使って頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の献立にはご利用者の希望が反映出来るよう好みを伺うようにしている。レクリエーションを兼ねたおやつ作りも時折実施している。準備や片付けは出来る範囲でお願いしている。	朝食と夕食は施設の厨房で作り、ご飯はホームで炊いている。昼食はホームで作れ、入居者も下ごしらえ(野菜切りや塩もみ等)や盛りつけ等をして下さり、職員も一緒に食事をされている。故郷の郷土料理(辛子蓮根やだご汁等)を作られたり、バイキング等も楽しまれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調、嚥下状態に合わせた形態、量で提供するようにしている。水分摂取量にも留意し、摂りにくい方に対しては紅茶ゼリーを提供する等、個別でも対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに努めている。義歯の消毒、歯科往診等、必要に応じたケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いながら排泄パターンの把握に努め、自立支援に向けた介助を行っている。パッド類の使用についても、常に職員間で検討、見直しを行っている。	布の下着(ハット)を使用し、排泄が自立されている方が多い。退院後、排泄支援を計画に盛り込み、日々のリハビリで立位が取れるようになり、おむつから紙パンツなどに変更できた方もおられる。羞恥心に配慮し、排泄後にコールして頂く方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、青汁、オリゴ糖等を使用し、自然排便を目指しているが、必要に応じて医師と相談しながら下剤によるコントロールも行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調やご気分に合わせて、無理強いすることのないよう行っている。拒否が続く場合、ご家族に声かけを依頼したり、他階の浴室を利用し気分転換を図る等、考慮している。	入浴を拒まれる方は原因分析し、入浴日の検討を続けたり、ケアハウスの大きな浴室を利用している。日々の清拭も行われ、季節に応じて菖蒲湯や柚子湯等も楽しまれている。浴槽が少し深い事もあり、浴槽内に足台を置き、安心して入浴できるようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況、状態に応じて日中も臥床時間を設けている。一人一人の就寝、起床時間を可能な限り尊重し、空調や使用する寝具に配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬、状態を把握し、医療関係者と連携を図りながら服薬支援を行っている。排便コントロールについてはスタッフ間で検討し、調整する場合もある。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や日常の会話の中から生活歴、趣味等を伺いそれぞれの好みの習慣により、家事、塗り絵、習字、生花等の支援を行い、気分転換して頂くよう努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	カンファレンス等で検討を行い、買物や食事等、少しでも多く外出の機会をもてるよう努めている。施設周りの散歩や、屋上での外気浴も努めている。	近くの公園の桜や、東長寺の花見に行かれている。お好みの外食(寿司、ステーキ、イタリアン)や年1回の居酒屋(10月)での会食も楽しまれている。家族と一緒にご主人のお見舞いや買物に行かれたり、鐘崎漁港までイカを食べに行かれた方もおられる。今後も要望を伺い、家族の協力も頂きながら、外出の機会を増やしていきたいと考えている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向も踏まえ、ご家族とも相談しながら対応している。所持している方に関しては、買物の際ご自分で管理して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を使用されている方に対しては操作支援を行っている。電話の取り次ぎや郵便物の投函等のお手伝いもしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場として適したものとなるよう努めている。その時々写真や季節の花、飾り付け等工夫している。1日4回の換気を行い、室温管理にも留意しながら清掃にも努めている。	ホールは広く、廊下の壁には行事の写真や習字、手作りの作品が飾られている。ご本人の意向等を考慮し、座席の配慮も行われ、入居者同士の会話が増えている。ソファに座り、テレビや新聞を見ながらゆっくりと過ごされている。脱衣室に飾り付けを行い、入浴時の楽しみを増やされたり、羞恥心に配慮してトイレに簾を下げている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とラウンジが離れている為、食後等、自由に過ごして頂いている。気の合う方同士で自由に談笑出来るベンチを配置する等工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたものを持ち込んで頂き、ご自宅での生活の延長と考えて頂くよう入居時からお願いしている。	ホームは6階にあり、見晴らしが良く、海や船が見える居室もある。花のリースで職員が作られた誕生日の記念写真や、ご自分で描かれた絵画、書道を掲示し、ぬいぐるみにはご自分で編まれたマフラーを巻かれている。毎朝、仏壇に職員が準備したお仏飯をお供えする方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を付け、トイレ、浴室等わかるように表示している。居室内は動線に合わせ、家具を配置する等安全に配慮している。一部のタンスには中身がわかるようシールを貼って表示している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			